

朝日の社会福祉
2018年の主な活動

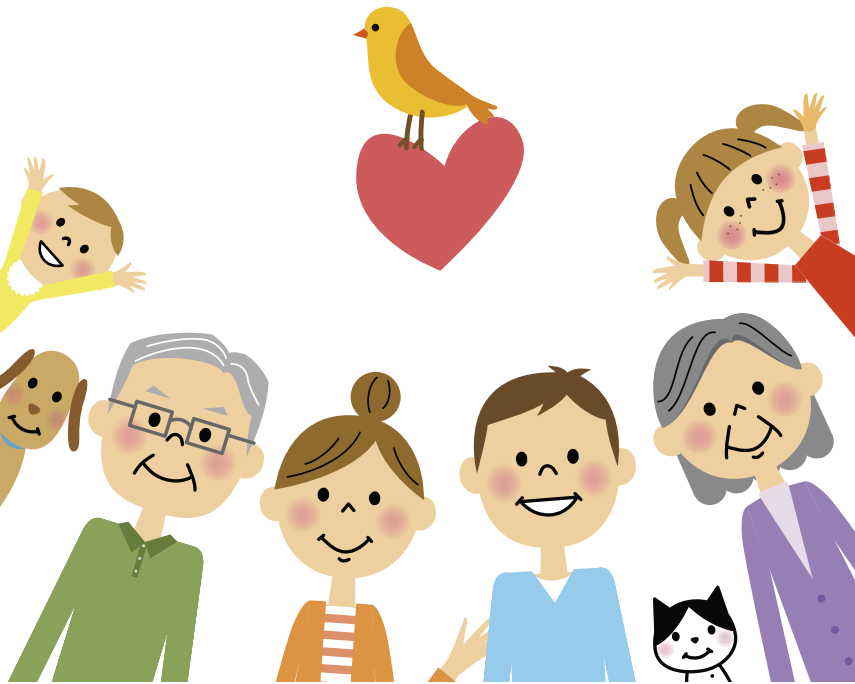
共に生きる 豊かな福祉社会を めざして

朝日の社会福祉

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日新聞厚生文化事業団は

福祉を支える「地域づくり」「人づくり」「支援の輪づくり」
を軸に社会福祉事業に取り組んでいます。



朝日新聞厚生文化事業団

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

子どもに希望を

高校生進学応援金

児童養護施設や里親家庭から大学や専門学校への進学をめざす高校生に、入学金に加えて卒業まで年間60万円(最大6年間360万円)、返還不要の応援金を贈っています。現在、63人が応援金を受けて学んでいます。2018年度の募集から、自立援助ホームに暮らす若者も対象としました。

在学中のサポートにつなげるため、入学前の3月下旬に「応援生のつどい」も開いています。

この事業はご寄付と山岡こども応援資金、原田積善会のご協力で行っています。

朝日こどもの未来 ブロック大会

子ども食堂や居場所づくり、行政や社会福祉協議会など地域の子どもたちへの支援に取り組んでいる人たちが、所属や立場を超え、いま子どもたちに必要な支援のあり方を考える講座です。

進んだ実践から学ぶと同時に参加者同士の交流を深め、様々な形の支援が結びつき、支え合う地域づくりに発展していくことをめざしています。18年10月に九州ブロックを対象にして開き、200人が参加しました。19年2月には東北ブロック大会を予定しています。



こども応援金

東日本大震災で両親を亡くした子どもに、使い道を問わない応援金(150万円～300万円)を直接渡しています。これまで202人に総額4億8850万円を贈りました。

朝日夏季保育大学

保育士や幼稚園教諭ら子どもにかかわる人たちが、工作や音楽などの実技や子どもをめぐる最近の状況を学びます。長野県諏訪市で毎夏開かれ、18年は「子どもが安心できる環境」をテーマに、困難を抱える保護者や子どもに対してのかかわり方を考えました。



ひとり親セミナー

「子どもへの接し方や育て方が分からない」「相談できる人がいない」など、悩みを抱えるひとり親が集い、ひとり親家族の研究者による講演や、子どもを抱えて離婚した経験者の体験談を聞いたり、互いに話し合ったりしながら親としてのあり方を考えました。



復興に寄り添う

西日本豪雨・北海道地震

7月に起きた西日本豪雨、9月の北海道地震で被災された方のため、救援金を受け付けました。西日本豪雨へ約1億4千万円、北海道地震へ4400万円を超える金額が寄せられました。この全額を日本赤十字社を通して被災地に届けました。別途、事業団独自の助成事業を実施します。

熊本地震復興支援活動助成



熊本地震の被災地で現在も支援活動が続いている団体の活動を支えるため、公募助成を行いました。仮設住宅に入居している人への心や体のケア、被災農家の作業を手伝うボランティアの受け入れなど、県内の13団体に総額約530万円を贈りました。

朝日のあたる家

東日本大震災の救援事業に寄せられた寄付金により、岩手県陸前高田市に建てたコミュニティーハウスです。2月に5周年を迎えました。認知症カフェや食事会、体操の集いなど地域の方々が自由に参加できる様々なプログラムを開催しています。



復興支援コンサート

東日本大震災の被災地の方々に、音楽を通して心やすらぐひとときを届けています。18年はバイオリニストの千住真理子さんとピアニストの丸山滋さんが、福島県川俣町、葛尾村、浪江町などを訪れ演奏しました。



南三陸復興支援



震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町に支援を行っています。復興住宅のそばに開所した高齢者支援施設「結の里」の建設にあたって、住民が集まるイベントなどに使えるウッドデッキの整備費などを助成しました。

グリーフサポート

震災で大切な人をなくした子どもたちの苦しみや悲しみの感情に、あそびや会話を通して寄り添う「グリーフサポートプログラム」を、宮城県東松島市のグループとともに進めています。





障害のある人とあゆむ

全国高校生の手話によるスピーチコンテスト

手話の普及を願い、1984年から開いています。全国から作文とビデオ審査を経て選ばれた高校生10人が、手話と音声でスピーチし練習の成果を競います。聴覚障害者とのかかわりを通して感じたことや将来にける思いなど、心に残るスピーチの数々が披露されます。18年は福島県立田村高校の柏原力樹さんが、「手話とともに」の題で1位に輝きました。



自閉症カンファレンスNIPPON



自閉症を正しく理解し、支援に生かすための最新の情報や実践を知ることができ、全国から1000人の参加者が集う国内最大級の会議です。18年は米国ノースカロライナ大学から講師を招き、幼児期から高齢期まで生涯にわたる支援の必要性を紹介しました。その後、新潟・熊本・岡山の3カ所で講演会を開き、計1400人が参加しました。

朝日新聞厚生文化事業団では障害者の就労を支援するため、障害者の就労実習の受け入れをしたり、軽作業の依頼をしたりしています。

精神障害のある人の地域生活に向けて

精神障害のある人やその子どもの地域生活を支える取り組みを行います。18年は、精神疾患の親を持つ子どもの会「こどもびあ」と一緒に、同じ子どもの立場の人同士で、これまで誰にも相談できなかった体験を語り合ったり、疾患についての理解を深めたりする「学習会」「つどい」を開催しました。

聖明・朝日盲大学生奨学金

聖明福祉協会と共催している、視覚障害のある大学生のための奨学金です。月額4万円を貸与しています。第50期奨学生には2人が選ばれました。半世紀にわたる貢献に、第26回ヘレンケラー・サリバン賞が贈られました。



朝日九州車いす バスケットボール選手権大会

日本車いすバスケットボール選手権大会西日本予選会への出場権をかけ、九州・沖縄のチームが熱戦を繰り広げます。18年は12月1・2日に沖縄県の宜野座村総合体育館で開催します。九州車椅子バスケットボール連盟と共催しています。





老いを恐れずに

フォーラム 「認知症カフェからの出発」(東京)

認知症のある人やその家族が集い、悩みを語り合ったり落ち着いた時間を過ごしたりすることができる「認知症カフェ」。地域住民が行政や医療などと連携してまちぐるみで認知症のある人を支える取り組みにつなげるには何が必要とされるのか。自治体の報告やカフェを運営している団体のポスター発表、医師の講演、参加者同士の話し合いなどを通して探りました。



認知症カフェ運営講座



2016・17年度に実施した「ともにつくる認知症カフェ開設応援助成」を贈呈した団体と協力し、各地で開いています。認知症のある人の地域生活を支える拠点の一つとして、地域にカフェの輪が広がることをめざしています。



認知症フレンドリーコミュニティ フォーラム(大阪)

認知症のある人が住み慣れた地域で生き生きと暮らすためのヒントを、「認知症フレンドリー首都」をめざす英国ロンドン市や、当事者の意見を取り入れたまちづくりを進めている東京都町田市取り組みから考えました。



ゆうゆうビジット



一流の音楽家や俳優、力士たちが全国の高齢者施設を訪問します。ミニコンサートやちゃんこ鍋などの交流を通して、外出の機会が少ない高齢者たちに楽しい時間をお届けしています。

高齢期の豊かな暮らしセミナー(大阪)

住まいやお金、病気など高齢期に直面する生活面での問題を、市民の視点に立って考え、情報提供しています。18年は認知症、「フレイル」をテーマに専門家から話を聞く機会としました。





チャリティー事業

朝日チャリティー美術展 (東京・大阪・名古屋)

全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる美術展です。12月の大阪展では民芸を、19年3月の東京展では立体アートをテーマに特別展を開催。支援の輪を広げています。



メサイア演奏会(東京)



毎年12月にヘンデル作曲「メサイア」を東京藝術大学の協力のもと上演しています。演奏は藝大フィルハーモニア管弦楽団、同大音楽科学生が合唱を担当します。戦争で親を失った子どもたちの支援を目的に1951年に始まりました。

親子で楽しむ クリスマスコンサート(東京)

あそびうたや体操、ダンスなど大人も子どもも笑顔になれるステージを届けています。18年も、保育現場で人気の歌「世界中のこどもたちが」「にじ」などを作曲した中川ひろたかさんらが出演します。



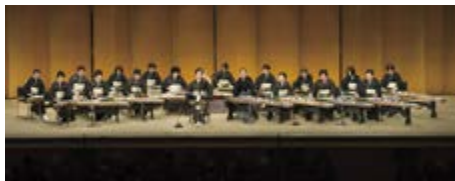
洋舞合同祭(大阪)

モダンダンスとクラシックバレエに打ち込む児童や大人のチームが、大阪・フェスティバルホールで競演します。総勢1000人あまりの出演者が、歳末の3日間にわたり華やかなステージを繰り広げます。



各派合同三曲演奏会(大阪)

西日本の箏、三絃、尺八の世界で活躍する邦楽の各派社中が競演する合同演奏会です。毎年11月に開かれ、10を超える社中が次々と演奏を披露し、会場は優美な和の音色でいっぱいになります。



茶会(大阪)

関西を中心に活動している各流派の茶道宗匠の協力を得て、いろいろな流派のお茶席を初心者でも気軽に体験できる合同茶会を3月に開いています。2日間で延べ5000人が訪れます。





福祉啓発や各種講座

遺贈・遺言セミナー（東京・大阪）

老いによる判断の衰えや死後のトラブルの備えとしてなぜ遺言が必要なのか、その書き方や書き残した内容が実行されるまでの流れを、弁護士が実例を交えながら分かりやすく解説するセミナーです。



自殺防止公開講座(福岡)



福岡いのちの電話と共催で、自殺を防ぐために何ができるのかを考えます。18年は九州大学の久保千春総長が「こころと身体の叫びを聴く」の題で、ストレスが現代人の心身に及ぼす影響を話しました。

アサヒベビー相談室(大阪)

無料の育児相談室を、あべのハルカス近鉄本店・西武高槻店内に設けています。育児に悩む親のために医師や歯科医師、栄養士などの専門家が、発育で気になることや病気、栄養などについての相談にのっています。





◆朝日福祉ガイドブック

・なるほど高次脳機能障害	1,296円
・認知症とともに	1,080円
・みんなのうつ	1,080円
・生き方、逝き方ガイドブック	1,296円
・自閉症のひとたちへの援助システム	540円
・自閉症の人たちを支援するということ	864円
・100%あらたくん	648円

価格は税込み。別途送料がかかります。

1冊180円、2～3冊250円、4～5冊300円(6冊以上はお問い合わせ下さい)

◆朝日福祉ガイドDVD

・自閉症の人が求める支援 全3巻セット価格10,692円／各巻4,320円
・自閉症の子どもの評価 生活スキル編 全4巻セット価格18,144円／各巻4,860円
・自閉症の人が見ている世界 ～自閉症の人を正しく理解する～ 全3巻セット価格10,692円／各巻4,320円
・自閉症の子どもの自立課題 全3巻セット価格13,608円／各巻4,860円
・TEACCHプログラムシリーズ 米国ノースカロライナ州にみる自閉症教育 ／各巻3,024円

価格は税込み。別途送料がかかります。7巻まで510円(8巻以上は800円)



ご寄付のご案内

朝日新聞厚生文化事業団の社会福祉事業は皆様からのご寄付によって支えられています。温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

寄付者名・団体名は朝日新聞の地域面に掲載いたします(千円以上。匿名扱いもできます)。

皆様からのご寄付は、
以下のような事業に使われます。

(2018年度事業予算、東日本大震災救援事業を含みます)

事業総額 2億651万円

高齢者の福祉
30.6%



障害のある人の福祉
18.3%



子どもの福祉
51.1%



この他公益事業としてガイドブックやDVDの発行、福祉啓発事業なども行っています。

ご寄付の方法

●郵便振替

口座番号「00130・1・9166」(加入者名＝朝日新聞厚生文化事業団)で受け付けております。通信欄に「寄付」とお書き下さい。またお名前の朝日新聞への掲載が不要な場合は「匿名」、領収書不要の場合は「領収書不要」と明記しご送金ください。

●銀行振り込み・クレジットカード

事業団ホームページからご寄付の手続きができます。

●現金受付

朝日新聞本社内の厚生文化事業団窓口(平日午前10時～午後5時30分)
朝日新聞の各総局などでお受けします。

●税制上の優遇措置について

事業団へのご寄付は次のような寄付金控除を受けることができます。

▽個人所得税

所得控除と税額控除のうち、いずれか有利な方をお選びいただけます。この優遇を受ける場合、確定申告を行う必要があります。

〈所得控除〉 寄付金の合計額※－2000円＝所得控除額
※総所得金額の40%に相当する額が上限

〈税額控除〉 (寄付金の合計額※－2000円)×40%＝税額控除額※※
※総所得金額の40%に相当する額が上限
※※所得税額の25%が上限

▽個人住民税

東京都にお住まいの方は、個人住民税から控除の適用を受けることができます。

(寄付金額※－2000円)×4%＝税額控除額
※総所得金額の30%が上限

▽法人の場合

当事業団に対するご寄付は、その寄付金の合計金額と寄付金の損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。詳細はお近くの税務署、税理士にご確認ください。

▽相続税についての優遇措置

相続で取得した財産の一部または全部をご寄付された場合、一定の要件を満たせばご寄付された財産について相続税は課税されません。また、遺贈については信託銀行と提携しご紹介も行っています。

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

本部(東京)

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03(5540)7446 FAX 03(5565)1643

大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18
TEL 06(6201)8008 FAX 06(6231)3004

西部事務所

〒812-8511 福岡市博多区博多駅前2-1-1
TEL 092(477)6930 FAX 092(477)6931

名古屋事務所

〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
TEL 052(221)0307 FAX 052(221)5453

朝日新聞厚生文化事業団ホームページ

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>



E-mail mail@asahi-welfare.or.jp

Facebook <https://www.facebook.com/asahiwelfare/>

「朝日の社会福祉 2018年の主な活動」

2018年11月発行

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団